

先生と私

2023. 8. 12

人間性を磨きたい。人間性を磨かなければといつも思っている。だが、現実は厳しい。結局は、何も変わってはいないような気がする。性格や気質が邪魔をする。

定期的に、「教職員のための共済フォーラム」という冊子が、公立学校共済組合より届く。そこには、「リレー連載 先生と私」というコーナーがある。毎回、各界で活躍している方々が、記憶に残っている先生、思い出に残っている先生、自分に影響を与えた先生を紹介している。文章の最後は、先生方へのメッセージで終わる。

「磨き抜かれた人間性が価値を生む」というタイトルで、水彩画家・絵画講師の柴崎春通さんのお話が載っていた。その最後に、先生と子どもたちに向けて、以下のメッセージがあった。

これは先生と子どもたち両方へのメッセージになりますけれども、この世の中というのはそうそう変わらないですよ。だから、自分が楽しく生きていくためには、自分の気持ちの持ちようを変えないといけません。気持ち次第で、世界の見え方はいかようにでも変わるんです。写生ツアーの日に雨が降り始めると、ツアーを企画した会社の添乗員さんは焦ります。でも、柴崎は「わあ、雨が綺麗だね、素晴らしいね、皆さん雨を描きましょう！」って楽しんじゃう。今、目の前にあることを肯定して、その素晴らしさを見いだす目を持つようになること。そういう見方ができるようになれば、人生は素敵なものになるし、周りにも良い影響を及ぼしていくんじゃないかなと思います。

こういったものに出会うと、いつも考えてしまう。そのとおりでと思う。自分の気持ち次第で、見え方が変わることもわかっている。だが、いつの間にか、元に戻っている自分がある。修行をしているつもりなのだが、人間として、なかなか変わらない。変わらない自分のことを考えると、嫌になってくる。もう、人間修行をやめようかとなる。

実際、40代後半の頃、一時期、人間性を磨くことをやめた時期があった。具体的には、書物を読むことをやめた。ところが、だんだんと焦ってくる。修行をやめて大丈夫なのかと、もう一人の自分がささやくのである。

仕方なく、また修行再開である。そうして、現在に至っている。書物を読んでも、そうだなとは思いますが、すぐに抜けていく感覚がある。何だか残らない。もしかしたら、何かしらの人間修行をしていないと、落ち着かないだけではないのか。義務感で動いているだけではないのか。罪悪感から逃れたいだけではないのか。そんなことを考えてしまう。

世の中もそうそう変わらないが、自分もそう簡単には変わらない。それでも、修行あるのみである。生きるとは、そういうことであろう。教員なのである。磨き抜かれた人間性を目指すしかない。